令和6年度 秋津小学校 学校評価表

領域	中項目	小項目	具体的評価項目標	取組（指標）	小項目の評価	中項目の評価	成果	課題	改善方策	学校関係者評価
Ⅱ学校運営に関するもの	(1)組織運営	②学校経営目標・方針	学校教育目標や運営方針について教職員の共通理解が図られている。	組織の各部門やメンバーの役割と責任を明確にし、相互の連携を図る。	4	4	学校教育目標や運営方針に基づいて校務分掌のそれぞれの業務を教職員で協力しながら行うことが	それぞれの部でしっかりと総括を行い、来年度に向けて学校教育目標が達成できるよう準備していきたい。	総括によりでてきた成果や課題を教職員全員で共通理解のもと来年度に活かしていく。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(2)研究・研修	③授業研究	学校内で他の教員の授業をもとに研修を深める機会がある。	年間必ず2本の授業研を行い、特別支援教育についても授業研を実施している。	3	3	6年生では国語科、3年生では算数科、特別支援学級では自立活動の授業研究を行った。また、5年生では市の道徳科における授業研究	授業研究の教科が各学年ちがうものとなり、授業力の向上において達成度が分かりづらく継続的な授業力向上とはならなかった。	来年度は研究教科を指定し、研究主題を意識して取り組めるよう学びを深めていきたい。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(3)安全管理	④安全指導の工夫改善	災害時の避難経路など行動を正しく説明できる。不審者への対応方法を理解している。交通安全に関するルールを正しく守れるよう指導している。	不審者対応訓練や避難訓練において計画的な実施と振り返りが行われている。地域と連携し、教員による定期的な児童の引率、通学路の安全確認を実施している。	4	4	計画的に避難訓練を実施することができた。また、月1回の登校指導及び下校指導を行い、通学路の安全確認もできた。	いつどこで災害が起こるかわからない昨今、登下校中や引き渡し訓練なども視野に今後計画していく必要がある。	どのような時も自分の命を自分で守ることができる行動がとれるよう指導しいくとともに学校全体で計画していきたい。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(4)保健管理	③健康観察、健康管理能力の育成	様々な感染症への感染予防及び児童の健康管理が徹底されている。また、歯・口の健康づくり推進事業に取り組み、自らケアして歯と口を守ることから自分の体や心を大切にできる児童の育成を行う。	毎朝の健康観察、早寝早起き手洗いの意識付け、定期的な保健指導、給食後の歯みがきなどが実施されている。「いい歯の日通信」を定期的に発行する。	4	4	毎学期、「のびーる大作戦」という生活習慣を改善させる取組を行うことができた。また、4年ぶりに「歯みがき教室」を実施することができた。	歯と口の健康づくりでは、よく噛むことについて意識できる児童が少なかった。また、歯みがきを習慣化につながらなかった児童もいた。	全体指導と個に応じた指導の工夫が必要である。自分の心と体を大切にできる力を養うことができる取組を継続して考えていきたい。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(5)地域との連携	⑤校種間連携	市内各学年間、隣接する幼児園等でICTを活用するなどし、交流を行う。教職員同士の連携を図るために定期的な会議を開く。	市内各学年間や隣接する幼児園で連携がとれている。相互に交流し、フィードバックを行う。年間の実施回数など記録をとる。	4	4	各学年ICTを活用し、交流することができた。また、4年生は市内全小学校が集まり防災について学習することができた。3年生5年生においては、葛小学校から来校していただき交流することができた。	見通しをもって計画を立て、どのように継続していくかをしっかりと引き継いでいく必要がある。	まとめ総括を行い、しっかりと次年度へ引き継いでいきたい。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(6)施設・設備	③施設設備の管理	定期的な安全点検を通して、安全安心な学校づくりがされている。	定期的な安全点検を行う。課題の早期解決を行う。	4	4	月に1回必ず全教職員で安全点検を行うことができた。	学校だけでは修繕が難しい箇所がある。	安全で安心な学校生活が送れるよう市教委とも連携をとっていく。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(7)情報管理	①公文書の収受・保管	受領印や日付が漏れなく記載され、受理した公文書が速やかに記録されている。また、安全な場所に保管されている。廃棄基準に従って適切に廃棄されている。	文書整理簿を作成し、データ管理を行う。廃棄記録の作成とデータ保存を行う。	4	4	適正かつ迅速に公文書の管理を行うことができた。	デジタルデータをうまく活用し、効率化を進めていきたい。	今後も適正な公文書管理を実施していく。	今後も継続した取組をお願いしたい。

令和6年度 秋津小学校 学校評価表

学校教育目標	『友だち大好き、勉強大好き、運動大好き』～内から育つ自己解決力の獲得をめざして～
本年度重点目標	「わかった、できたがあふれる授業づくり」～「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして～

領域	中項目	小項目	具体的評価項目標	取組（指標）	小項目の評価	中項目の評価	成果	課題	改善方策	学校関係者評価
Ⅰ教育活動に関するもの	(1)教育目標・教育計画	②教育計画の作成	教育目標が達成できるよう具体的な計画が立てられている。	学習指導要領に基づいた教育課程が編成され、児童の実態に応じた授業を実施する。	3	3	朝学では毎日継続して基礎学力定着を目指した取組を行うことができた。	研究授業において、教科を絞らなかったため単発となり次に繋げずらかった。	来年度は、児童の実態に合わせ、国語科に教科を絞り、研究を進めていきたい。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(2)教科指導	③指導方法の工夫改善	児童にとってわかりやすい授業になるよう有効的にICTを活動するなど、指導方法の改善に努めている。	ICTの有効的な活用能力の向上に取り組む。主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。	4	4	全教職員が研究授業に参加できるよう校時設定を行った。研究協議においてICTを活用することで、記録が残り、いつでも振り返り次の授業に生かすことができた。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた効果的なICT活用による授業改善については継続して授業研究に取り組んでいきたい。	来年度も全教職員が研究授業に参加できるよう計画し、気軽に参観しながら教職員同士が学びあえる環境を整備していく。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(3)道徳・特別活動	①指導計画の立案	特別の教科道徳において目標を明確にした指導計画が作成され、児童や地域の実態に即した指導を行っている。	各学年を通じて、児童の自主性や自立（律）心、人権や生命を尊重する個々の育成に配慮した授業を行う。	4	4	年間指導計画をもとに、各学年で内容項目にそった授業を行うことができた。	まだまだ、「やる気がない」「すぐに諦めてしまう」など、児童の自主自立を育むためには課題がある。	今後も、家庭・学校・地域も含め協力しながら、子どもたちの自主自立を育む環境づくりを進めていく。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(4)総合的な学習の時間	①学習指導計画の立案	児童の興味関心を大切にし、地域の特性に根ざした内容が重視されている。	人権や生命、地域の発展などについて、主体的、創造的に取り組み、自己の豊かな生き方につながる学習内容を展開する。	4	4	地域の歴史や文化、自然に関する学習を通してｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰを招聘するなど体験的な学習活動を取り入れ児童の学習が高まり、主体的に学ぶ姿勢が見られた。	まだまだ児童自ら情報を整理し、分析・まとめ、表現する力に課題がある。	児童の実態にあった内容であるかをしっかりと総括し、より効果的な学習となるよう準備する。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(5)人権教育	③指導方法の工夫改善	命の大切さを知り、たくましく生きる力と生命を尊重する心を育む指導方法の工夫改善が図られている。	校内人権教育推進計画に基づき、丁寧な取組を行う。	4	4	年間計画を基に各取組を実施することができた。幼小中とも連携することができた。	人権講演会やあすなろ通信、ブログなどでも人権教育について配信してはいるがなかなか保護者への理解が得られなかった。	家庭とも連携し、学校及び家庭での児童の様子を共有しながら今後も人権教育を進めていきたい。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(6)生徒指導	①組織的な生徒指導	諸問題が発生したときは、学校全体で組織的に対応できる体制が整っている。	諸問題が発生したときは、教職員で共通理解をし、各関係機関とも連携を図りながら学校全体で取り組む。	3	3	諸問題が発生したときは、教職員で共通理解を図り、学校全体として取り組むことができた。	児童への指導や言葉がけなどより一層教職員で共通理解のもと、組織全体で児童を見守り、連携を密にして教育活動を進める必要がある。	小さな課題においてもしっかりと教職員間で共通理解をし、関係機関とも連携しながら、学校全体で取り組んでいく。	今後も継続した取組をお願いしたい。
	(7)進路指導									
	(8)特別支援教育	①組織的な特別支援教育	校内委員会を通して組織的な支援体制が構築されている。また、教職員で共通理解がなされている。	配慮を要する児童についての共通理解のもと支援にあたる。	4	4	配慮が必要な児童について定期的に校内委員会を開くなど計画的に人一人のニーズにあった支援体制について話し合うことができた。	学校生活全てにおいて配慮することは難しく、時間、人数にも限界があるので対応が難しい面もあった。	時間割をうまく調整しながら、一人一人のニーズにあった支援ができるよう環境を整えていく。	今後も継続した取組をお願いしたい。